

2. 平成 17 年 3 月期 第 3 四半期 財務・業績に関する定性的情報等

(1) 経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等

当四半期の連結売上高(営業収益)は、前年同四半期に対し 3.2%増加の 4,352 億円となり、営業外収益を含む四半期経常収益は、前年同四半期に対し 3.1%増加の 4,375 億円となりました。

一方、営業費用は人件費、減価償却費の減少はあったものの、火力発電所の高稼働による燃料費の増加等により前年同四半期に対し 7.6%増加の 3,346 億円となりました。また、営業外費用については、支払利息の大幅な減少等により前年同四半期に対し 27.0%減少の 422 億円となり、四半期経常費用は前年同四半期に対し 2.2%増加の 3,767 億円となりました。

以上により、四半期経常利益は前年同四半期に対し 8.7%増加の 608 億円となり、豊水による湯水準備金の引当等を行った結果、四半期純利益は前年同四半期に対し 8.1%増加の 379 億円となりました。

なお、事業の種類別セグメントの業績(セグメント間の内部取引消去後)は次のとおりです。

(電気事業)

当四半期の卸電気事業(当社)の販売電力量は、水力・火力合計で前年同四半期に対して 2.8%増加の 455 億 kWh となりました。水力は、前年同四半期を上回る豊水(出水率 111% 123%)により、3.1%増加の 93 億 kWh となりました。火力は、発電所の高稼働により、前年同四半期に対し 2.7%増加の 362 億 kWh となりました。

また、その他の電気事業では、前連結会計年度までの糸魚川発電(株)に加えて、当連結会計年度より営業運転中の市原パワー(株)、仁賀保高原風力発電(株)、(株)グリーンパワーくずまき、(株)ドリームアップ苫前を新規連結したことにより、販売電力量は、前年同四半期に対して 51.5%増加の 5 億 kWh になり、電気事業合計では、前年同四半期に対して 3.2%増加の 460 億 kWh になりました。

当四半期の電気事業営業収益は、料金改定による託送収益の減少があったものの、火力発電所の高稼働及び奥只見発電所・大鳥発電所(平成 15 年 6 月運転開始)が通期稼働したことによる増収や、新規連結した市原パワー(株)、仁賀保高原風力発電(株)、(株)グリーンパワーくずまき、(株)ドリームアップ苫前の売上等により前年同四半期に対して 4.3%増加の 4,111 億円となりました。

一方、電気事業営業費用は人件費、減価償却費の減少はあったものの、火力発電所の高稼働による燃料費の増加及び定期点検による修繕費の増加、並びに新規連結子会社の営業費用等により前年同四半期に対して 9.7%増加の 3,064 億円となりました。

(その他の事業)

当四半期のその他事業営業収益は、当社の附帯事業営業収益の増加があったものの、連結子会社のグループ外売上の減少により前年同四半期に対して 12.2%減少の 241 億円となりました。

一方、その他事業営業費用は当社の附帯事業営業費用の増加があったものの、連結子会社のグループ外売上の減少に伴う売上原価の減少等により前年同四半期に対して 10.5%減少の 282 億円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等

当四半期末の資産につきましては、固定資産は当連結会計年度より新規連結した市原パワー(株)他による増加等がありました。減価償却の進行による減少等により前連結会計年度末から547億円減少し1兆8,904億円となりました。これに流動資産を加えた総資産は前連結会計年度末から204億円減少し2兆557億円となりました。

一方、負債につきましては、借入金・社債の返済等により前連結会計年度から537億円減少し当四半期末の負債総額は、1兆6,622億円となりました。このうち、有利子負債額は前連結会計年度末から633億円減少し1兆5,296億円となりました。

また、当四半期末の資本合計は、前連結会計年度末から327億円増加の3,923億円となりました。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報等

当四半期末における現金及び現金同等物の残高は、営業活動により1,276億円の増加がありました。固定資産の取得などの投資活動として312億円及び財務活動として801億円の支出となり、前連結会計年度末残高277億円及び新規連結による増加額23億円等を加えた当四半期末残高は462億円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、火力発電所の高稼働による営業収益の増加がありましたが、減価償却費の減少及びたな卸資産の増加等により前年同四半期に比べ162億円(11.3%)減少の1,276億円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、当期より新規連結した(株)ジェイウインド田原他の建設費の増加があったものの、新事業関係IPP事業会社等への貸付金の減少等により前年同四半期に比べ82億円(20.7%)減少の312億円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済額の減少、長期借入れによる収入の増加及びコマーシャル・ペーパーの発行による収入と償還による支出の差額の増加などがありましたが、社債の償還(デットアサンプション含む)の増加並びに前年同四半期にはあった株式発行による収入がなかったことなどにより前年同四半期に比べ173億円(27.6%)増加の801億円の支出となりました。